

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 574 号	氏名	喜多 潤子
学位審査委員	主 査	尾崎 誠	
	副 査	中尾 一彦	
	副 査	工藤 崇	
論文審査の結果の要旨 1 研究目的の評価 本研究は、予後不良因子を持った超早期の関節リウマチ（RA）患者の治療の有効性と、関節破壊の進展と治療経過中の臨床パラメーターの関連を明らかにしようとしたもので、研究目的は十分に妥当である。 2 研究手法に関する評価 両側手指関節 MRI 検査で骨髄浮腫陽性かつリウマチ自己抗体陽性である、予後不良の超早期 RA 患者 13 例を対象とした。全例に合成疾患修飾抗リウマチ薬(DMARDs)を導入し、12 ヶ月後の治療効果と関節破壊進展に関連する治療経過中の臨床パラメーターを統計学的に検討したもので、研究手法は妥当である。 3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、13 例中 7 例で Simplified Disease Activity Index (SDAI) での寛解が得られた。13 例中 9 例では単純レントゲン像での関節破壊の進行を認めなかった。関節破壊進行を予防する因子としては MRI での骨髄浮腫の著明な減少と time- integrated SDAI （SDAI の積分値）が検出された。超早期 RA 患者における DMARDs を用いた治療介入の成績は良好であり、骨髄浮腫の改善が炎症抑制と骨関節の構造保護に有効であることが示唆された。これらの結果は超早期 RA 患者治療への貢献が大きく、今後の進展が大いに期待できる。 以上のように本論文は関節リウマチの研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。			